

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

1 調査日時

平成30年4月17日(火)

2 調査対象

小学校(義務教育学校前期課程を含む) 第6学年

中学校(義務教育学校後期課程を含む) 第9学年

3 調査児童・生徒数 ()内は本区

第6学年 999,683人(2,309人)

第9学年 982,511人(1,519人)

4 調査内容

(1)教科に関する調査

○主として「知識」に関する問題

〔国語A、算数・数学A〕

○主として「活用」に関する問題

〔国語B、算数・数学B〕

○「知識」と「活用」を一体的に出題

〔理科〕

(2)生活習慣や学習環境に関する調査

○児童・生徒質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸侧面等に関する調査

○学校質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況に関する調査

【参考】

※数字は平均正答率、丸数字は都道府県の順位を示す。

6年生

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
77 秋田①	61 秋田①	70 品川① 石川 68 石川①	59 石川① 品川① 石川	66 秋田① 品川① 石川	59 石川① 石川
76 石川②	59 広島③	67 秋田② 東京 福井 品川	57 秋田②	64 富山③	57 秋田② 福井
75 青森④	58 富山④ 香川 品川	66 新潟④ 富山 福井 沖縄	56 福井③	63 次城⑤ 広島 大分 品川	55 東京④
74 東京⑤	57 東京⑥			62 東京⑧	62 東京⑧

9年生

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
80 秋田①	66 秋田①	72 福井①	53 福井①	71 石川① 福井	53 福井①
79 石川②	65 石川②	71 石川②	52 石川②	70 富山③	52 石川②
78 富山④	64 福井③ 静岡 品川	70 富山③ 品川	51 富山③ 品川	67 品川③ 品川	67 品川③ 品川
77 東京⑥	63 東京④	67 東京⑩	49 東京⑤	65 東京④	65 東京④

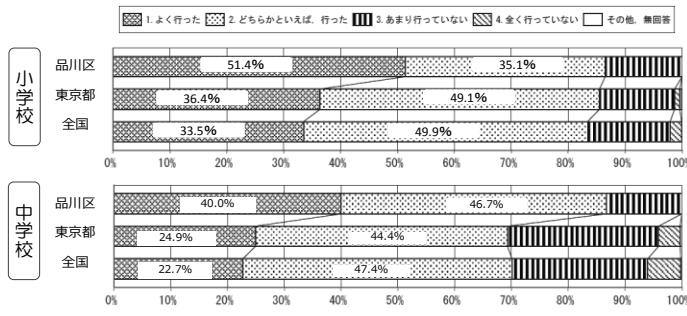
5 教科に関する調査の結果の概要(平均正答率)

小学校	品川区	東京都	全国	中学校	品川区	東京都	全国
国語A	76%	74%	71%	国語A	78%	77%	76%
国語B	58%	57%	55%	国語B	64%	63%	61%
算数A	70%	67%	64%	数学A	70%	67%	66%
算数B	59%	55%	52%	数学B	51%	49%	47%
理科	63%	62%	60%	理科	67%	65%	66%

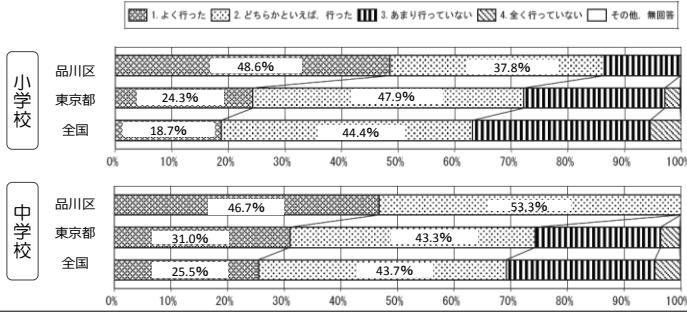
○ 全ての調査結果において、全国および東京都の平均正答率を上回っている。

6 学校質問紙調査の結果概要

○地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか



○近隣等の(小)中学校・(中)小学校と、教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか

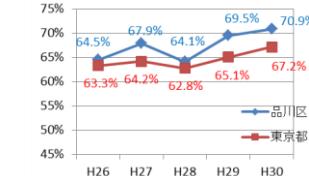


○「授業における地域人材の活用」や「学校段階間の円滑な接続に向けた取組」について肯定的な回答をした学校の割合は、国や都を大きく上回っている。

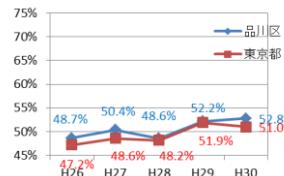
7 児童・生徒質問紙調査の結果概要

○家で、自分で計画を立て勉強をしていますか。(肯定的な回答の合計)

<小学校>

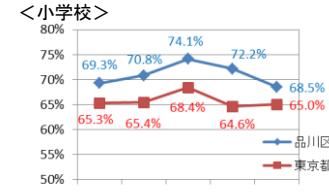


<中学校>



○地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか。(肯定的な回答の合計)

<小学校>



<中学校>



○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。(肯定的な回答の合計)

<小学校>



<中学校>



○「自ら計画を立て勉強している」、「地域や社会の出来事等に関心がある」、「話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」と肯定的な回答をした児童・生徒ほど正答率が高い傾向が見られた。

8 考察

<小学校>

予習・復習等、計画的な家庭学習の継続が、良好な調査結果に結びついたと言える。理科の観察・実験の技能の定着に課題が見られた。

<中学校>

調査結果は概ね良好であるが、昨年度と同様、国語では古典や書写の基礎的事項の定着に課題が見られた。また、理科において、結果の原因を推察し、自分の考えを記述する問題に課題が見られた。

<共通>

全ての学校で、プロジェクターや電子黒板等のICTを活用した授業を1クラス当たり週1回以上行っている。引き続き、児童・生徒の興味・関心を高めるとともに、児童・生徒の実態や特性に応じた授業改善を図っていくことが必要である。